

# 子供の個室保有が自立の発達と家族生活に及ぼす影響(1) (梗概)

北浦 かほる

——日米比較研究の予備的研究——

## 1. はじめに

子供は物理的環境の経験とそれをコントロールする経験を通して「独立した自己の存在」をつくる一方、「社会的な存在」をつくり上げる。幼年期の発達とは、社会と物理的環境からの人間の分離及び社会と人間の相互関係をつくることとしてとらえられる。青年期は self-identity の構成において批判的な局面であり、その経験を通じて社会化し、independence と self-identity の限界に向かっていていると考えられる。

空間の所有や行為の選択についてのプライバシーの選択は、autonomy に結びつくものであり、<sup>#,1,2,3,4)</sup>物理的環境としての個室空間が、子供の社会化過程で、自立と深いかわりを示すことが推測されるが、空間の影響を子供の自立の発達や家族生活の要因から分離して取り出すことは困難である。

空間という物理的環境の影響は、それに人がどう対応するかによって、間接的にはあるが顕在化する。文化差を人間のこの対処の仕方の差としてとらえると、その基盤に共通する空間の影響が把握しやすくなる。文化差は、ある発達段階に達した子供に対して、親や社会がどのように対処するかを表われる。

そこで異なった文化の視点から、子供室を同時にとらえ、相互に比較検討することで子供の個室空間の影響を考察しようとするものである。本研究はその第1段階として、子供と家族の生活実態の究明に重点を置いた予備的研究である。

## 2. 調査の概要

主研究を行う前に、まず予備調査を行い、文化差を容認した上で、両国の子供室を取り巻く物理的状況とそれをつくり出す背景、使われ方、及びそこにかかわる人と子供の関係をできる限り多面的に実態把握することを日米で合意した。以上の目的の下に調査の視点及び方法等に関する日米合同の検討会を1986年10月に持った。

子供室をとらえるために、子供・両親(家族)・空間を指標として、日米各々の子供室についての知見をもとに調査項目を検討し、共通の英文の調査票を作成した。日米で合意した調査票の内容は図-1のフローチャートでとらえられる。

調査対象(表-1)は日本では都市圏に通勤している戸建居住のサラリーマン層の子供を考えていたので、米国ではそれに匹敵する白人の middle class を対象とした。しかし、小学生についてはマンハッタン島内で行う

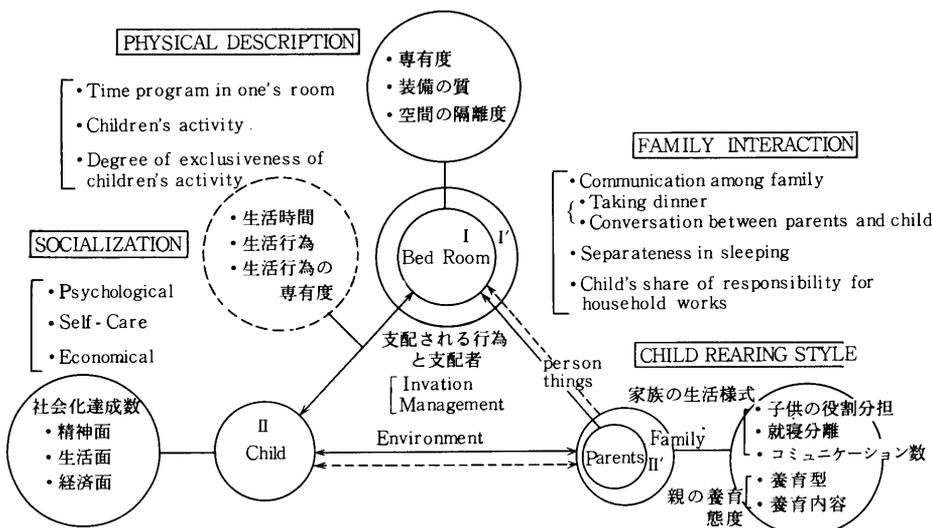


図-1 子供室にかかわる要因フローチャート (日米合同案)



写真-1 Public School 87

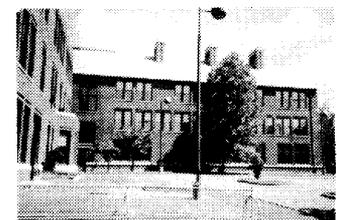


写真-2 Dobbs Ferry Middle school

表-1 調査対象 (日・米)

	地域	調査日時	人数
日	小学1年生 (6~7歳)	大阪府茨木市 1986年11月11日~12日	20人 男13人 女7人
	小学4年生 (9~10歳)	茨木市 11月11日	(各1クラス) 男42人 女40人
	中学1年生 (12~13歳)	吹田市 11月5日	(2クラス) 男39人 女32人
	高校1年生 (15~16歳)	兵庫県川西市 11月上旬	(2クラス) 男47人 女47人
米	1st grade (6~7歳)	マンハッタン P.S. 87 1987年6月上旬	9人 男4人 女5人
	4th grade (9~10歳)	マンハッタン P.S. 87	18人 男10人 女8人
	7th grade (12~13歳)	Dobbs Ferry Middle School 1987年2月11日	(3クラス) 男27人 女28人
	10th grade (15~16歳)	Dobbs Ferry Middle School 2月12日	(3クラス) 男26人 女24人

表-2 調査対象の住宅形式の内訳(日米)

日	本	一戸建	連棟建	中層アパート	高層アパート	無回答
小1(20)	人	50.0 (10)	15.0 (3)	25.0 (5)	10.0 (2)	0 (人)(0)
小4(82)	人	42.7 (35)	14.6 (12)	14.6 (12)	28.0 (23)	0 (0)
中1(71)	人	23.9 (17)	14.1 (10)	21.1 (15)	39.4 (28)	1.4 (1)
高1(94)	人	89.4 (84)	4.3 (4)	5.3 (5)	1.1 (1)	0 (0)
計(267)	人	54.6(146)	10.9(29)	13.9(37)	20.2(54)	9.4(1)
米	国	一戸建	連棟建	中層アパート	高層アパート	その他
1st(9)	人	(0)	(0)	44.4(4)	55.6(5)	(0)
4th(18)	人	11.1(2)	5.6(1)	16.7(3)	50.0(9)	16.7(3)
7th(55)	人	47.3(26)	27.3(15)	16.4(9)	3.6(2)	5.5(3)
10th(59)	人	59.3(35)	16.9(10)	15.3(9)	3.4(2)	5.1(3)
7+10th(114)	人	53.5(61)	21.9(25)	15.8(18)	3.5(4)	5.3(6)

ことになったため、一部階層的な差異がみられる(表-2)。また、米国では両親または片親の欠損家庭が31.1%と日本に比べて高率を占めている。

調査方法はクラスルームにおけるアンケート記入方式であるが、米国の1年と4年については個人別のインタビュー調査である。

また、米国の調査についてはニューヨーク州の法律により、Humann Subjects committeeによる調査内容のチェックが必要であり、次いでSuperintendent・校長・担当教師の許可と父母の同意書を要したため、実施するまでに非常に多くの手間と時間がかかり難航した。

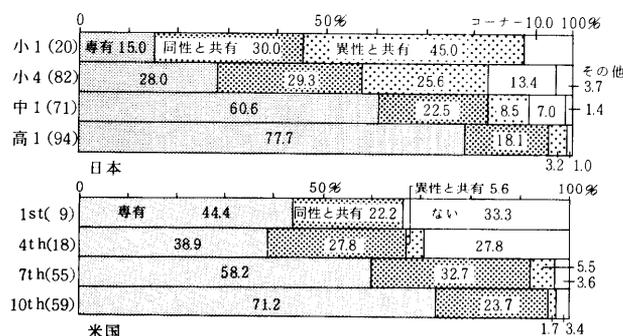


図-2 子供の専有状態 (日米比較)

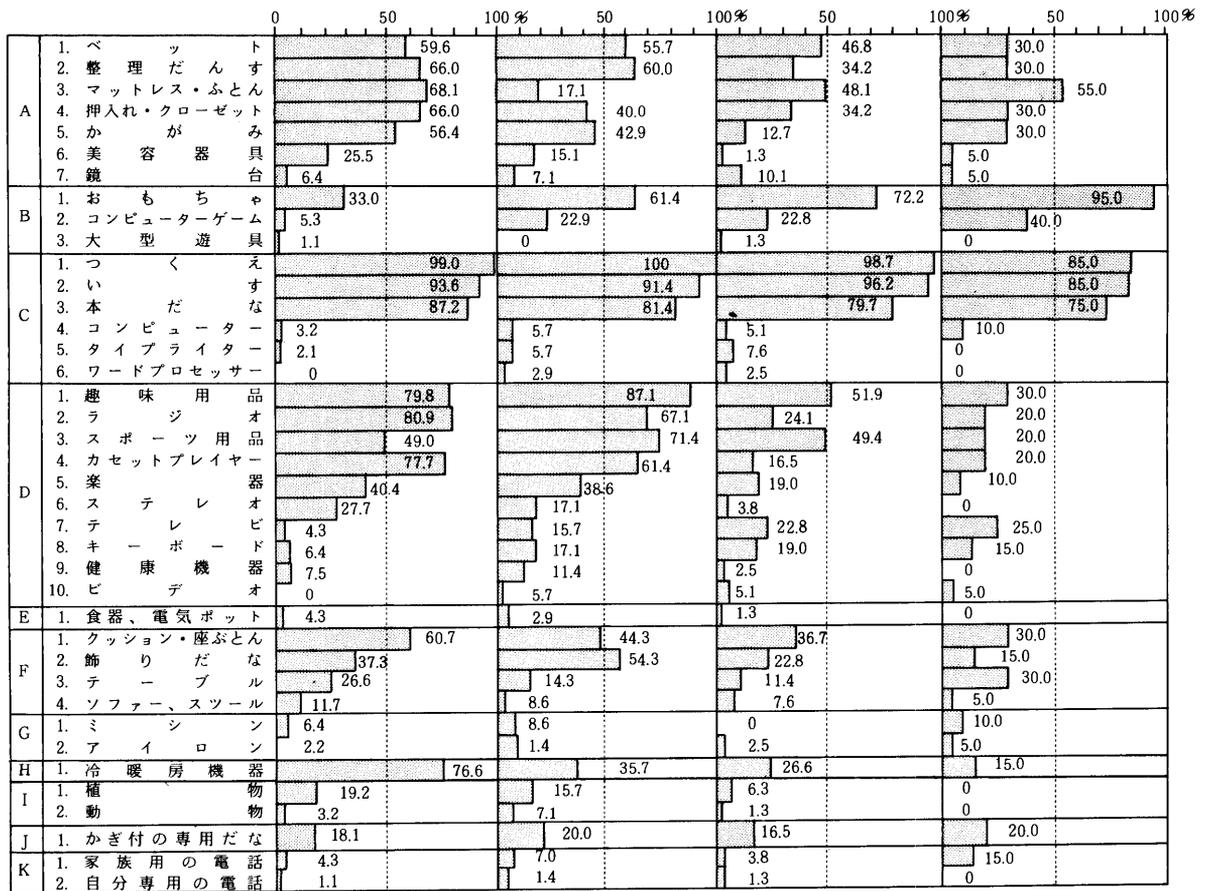
### 3. 子供の生活の実態

#### 1) 物理的空間の実態

物理的空間の実態として空間の専有度、子供室以外の空間の所有、隔離度(出入口の状態、ドアの開閉、共有室の間仕切りの状態、鍵の有無と鍵の使用)を求めた。

表-3 設定項目の概要

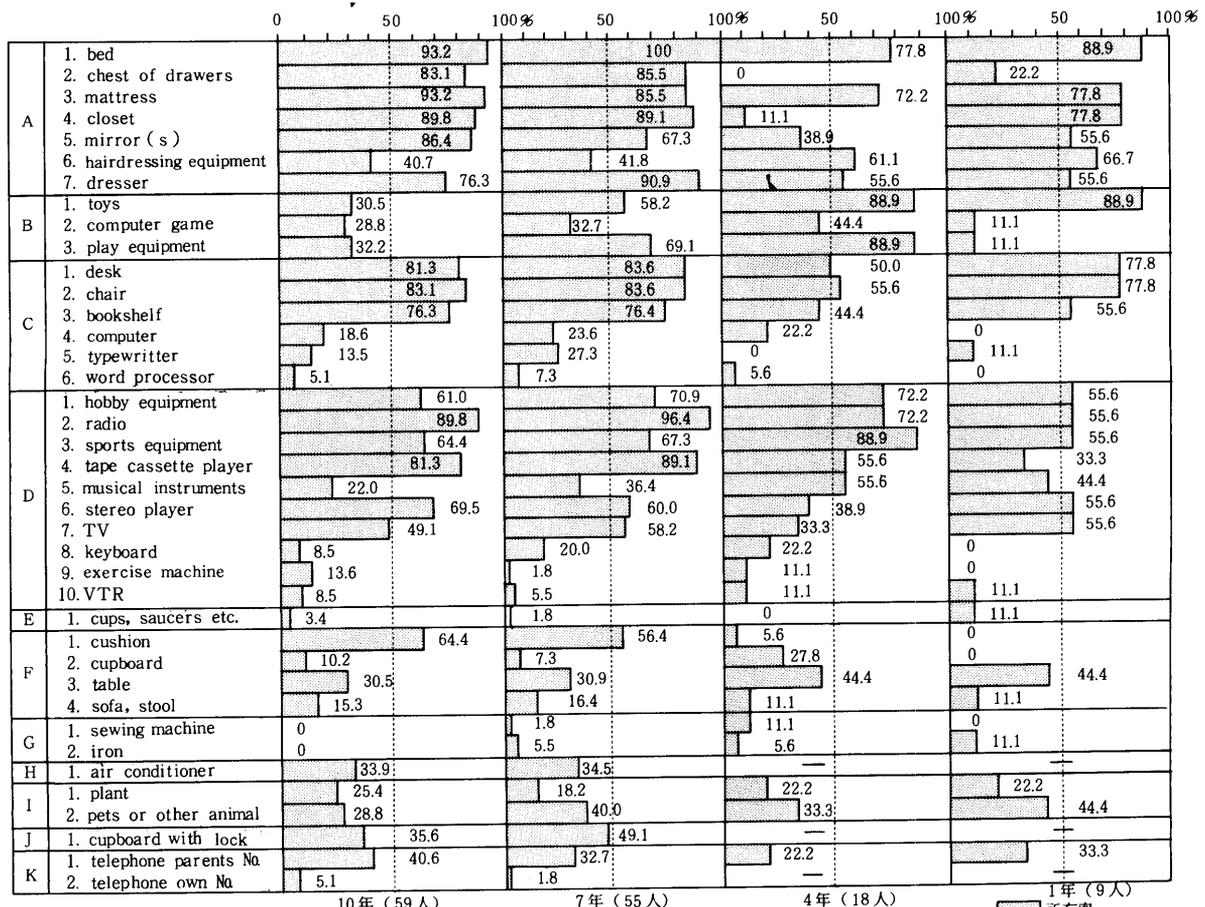
社会化達成数	CHILD REARING STYLE
生活面 — 子供室の掃除, ベッドメイキング, 起床, ボタン付け, 料理 以上0~5点	49. When you are punished does your mother or father usually explain the reason why they have punished you?
精神面 — さわられたくない物がある, 迷惑をかけた後始末, ひとりになれる場所が欲しい, 門限を守る, 人にじゃまされずひとりで居たい 以上0~5点	42. Does your mother or father advise you which friends you should have?
経済面 — 欲しい物の購入法: 1. 自分で稼いだ金, 2. 自分の金, 3. そのつど親にもらう金のうち1, 2, 1と2に回答 1点 金の使い方への親の干渉 父母ともなし 1点 物の購入後の後悔 しない 1点 以上0~3点	46. Does your mother or father punish you?
管理状態 …… かぎの所有・無断侵入, 入室台図, 家具の位置, 壁の色や模様, 衣類, ポスター, 掃除, ベッドメイキング 以上9項目中 母親管理数3点以上…… 母親管理型 父親管理数3点以上…… 父親管理型 (コーナー) 家具の位置, 衣類, ポスター, ベッドメイキング 以上4項目中 2点以上	51. Does your mother or father tell you what they want you to be when you grow up?
コミュニケーション数 …… 夕食, テレビ, 会話, 買物(1週間), 映画(今まで), スポーツ観戦(今まで・1週間), スポーツ(1週間) 以上8項目中 父0~8点・母0~8点	48. Do you think you could talk to your mother or father about everything if you wanted to?
侵入状態 …… 家族の使用(昨日), 客の宿泊のためのあけ渡し, 家族の通り抜け, 家族のためのあけ渡し 以上4項目中 2点以上 …… 侵入型	52. Do you think that either of your parents is so concerned with you that they do not think of themselves?
役割分担の有無 …… いつもする仕事の有無	個人尊重型: 49 Yes. 42 No. 52 No. 親子密着型: 42 Yes. 51 Yes. 52 Yes.
親の養育態度 41. 親があなたをしかるとき, その理由をちゃんと説明してくれますか。 42. 親はあなたの手紙を, 断りなしにあげて見ますか。 46. あなたの親は, あなたの友達を選び方について口を出しますか。 51. 親はあなたに罰(おしおき)を与えたことがありますか。 53. 親はあなたの将来を期待していますか。 54. わたしの親にはなんでも相談できる。 55. 親はあなたの世話をしたりあなたといっしょに居るのを, 何よりの楽しみにしているようですか。 個人尊重型: 41 YES(必) 55 NO(必) 42 NO 46 NO (どれか1つ) 親子密着型: 55 YES(必) 42 YES 46 YES 53 YES (どれか2つ)	(英文の設問番号と日本文の設問番号は対応していない。)



高1 (94人) 中1 (71人) 小4 (82人) 小1 (20人)

図-3 装備の質種類別単純所有率 (日本)

所有率



10年 (59人) 7年 (55人) 4年 (18人) 1年 (9人)

図-3 装備の質種類別単純所有率 (米国)

所有率

子供の部屋は日本では子供室または勉強部屋と呼ばれるが、米国では子供の bedroom がそれに当たる。

日米とも子供室の専有状態は似ている。年齢とともに専有の割合が高くなり、高1（10年）では70～80%に達

している。米国では異性との共有がほとんどないのに対し、日本では小学生時にはかなり多くみられる（図-2）。

子供室以外に自分専用の部屋を所有している者は日本4.5%、米国8.5%といずれも少ない。

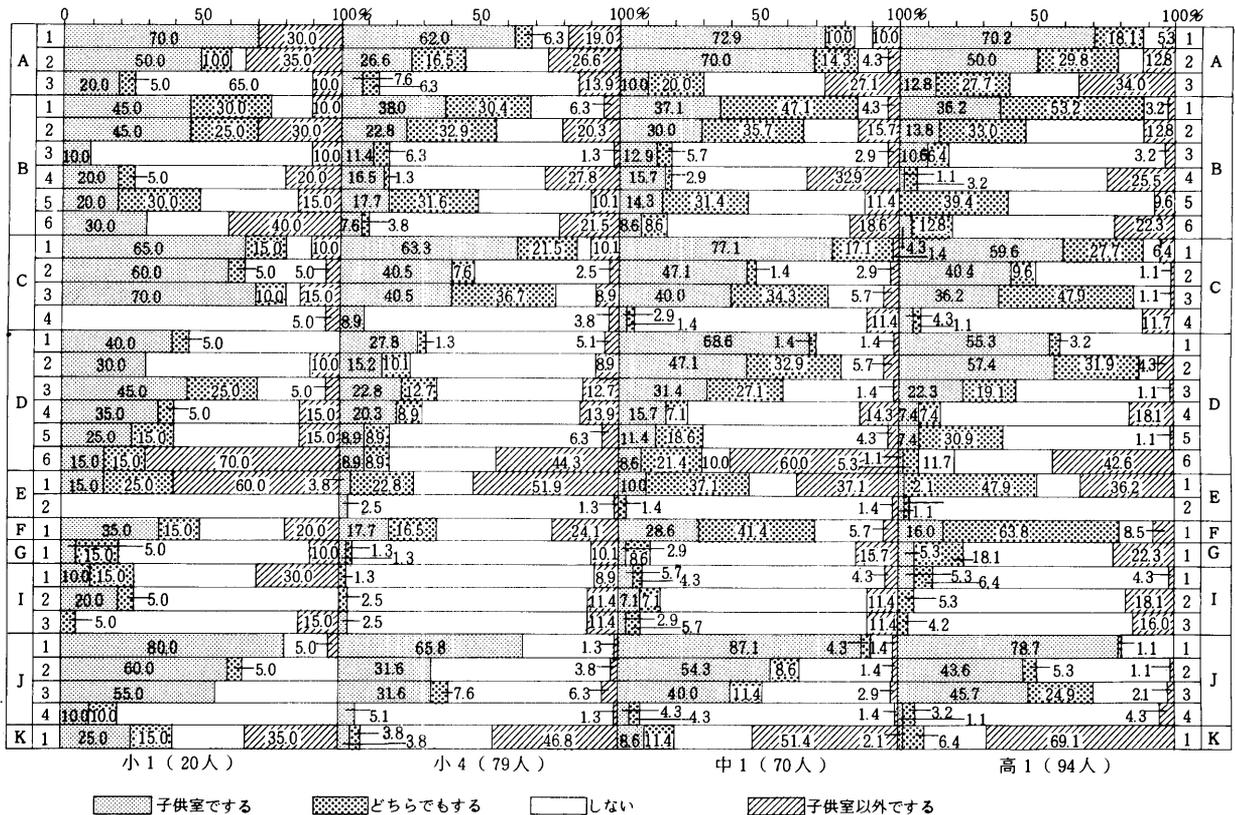


図-4 子供の生活行為の専有場所（日本）

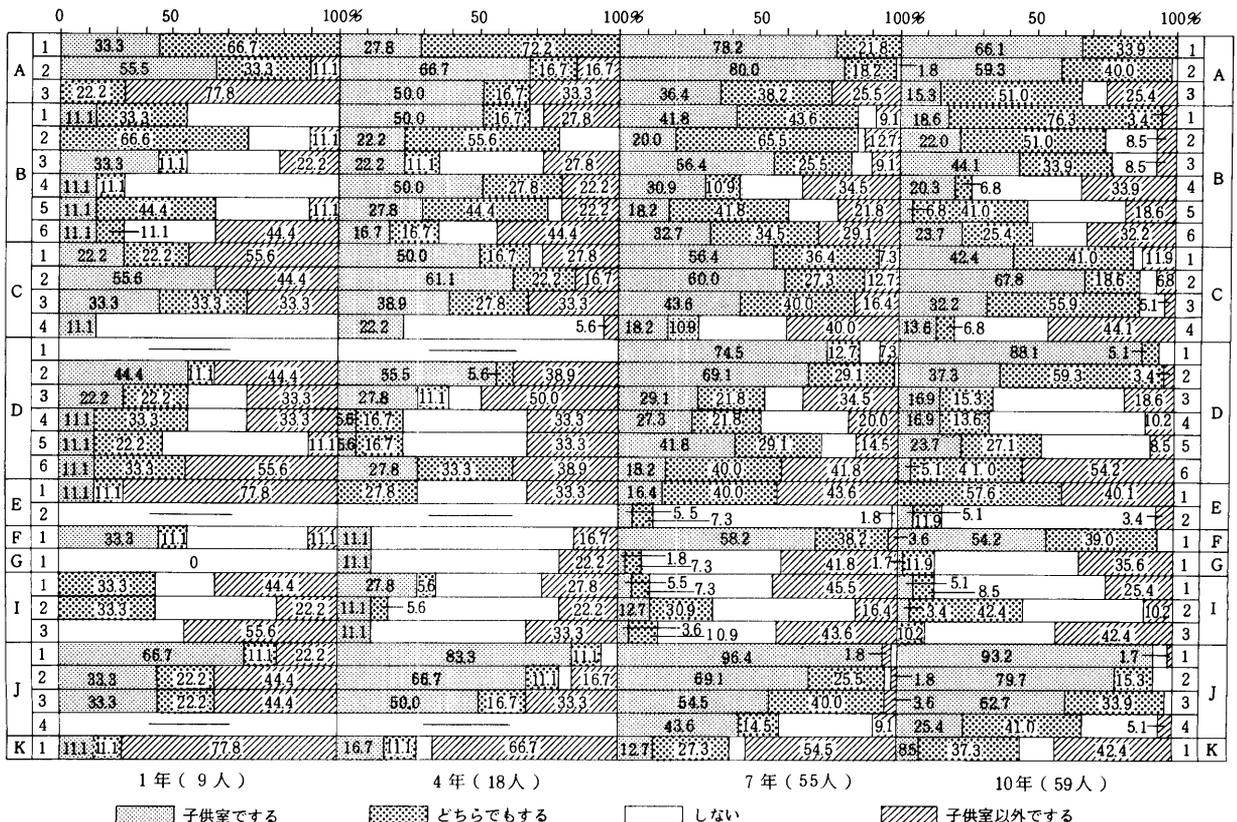


図-4 子供の生活行為の専有場所（米国）

表-4 装備の種類数平均（日米比較）

種類数(人)	1st	4th	7th	10th	全体
米 国	14.1 (9)	14.3 (18)	18.4 (55)	16.8 (59)	16.9 (141)
日 本	8.7 (20)	8.6 (82)	13.3 (70)	13.5 (94)	11.7 (263)

種類数；1人当たりの所有種類数

表-5 場所別生活行為数平均値（日米比較）

日本/平均数	小 1	小 4	中 1	高 1	計
子供室です	10.1	6.1	8.6	6.9	7.4
どちらでも	3.1	3.0	4.8	5.9	4.5
子供室以外	5.3	4.3	3.8	4.4	4.3
計	18.5	13.4	17.2	17.2	16.2

平均数；1人当たりの生活行為数

隔離度を子供室の出入口の状態で見ると、日本ではドア 48.4%、ふすま 20.6%、板戸 16.7%と続き、米国では9割以上が four walls と a regular door を持つ部屋であった。また共有の場合、きょうだいとの隔離度は低く、年齢や男女にかかわらず、日米とも8割程度が間仕切らずに使っている。間仕切りのある場合でも、家具やカーテンなどの簡単なものが主になっている。

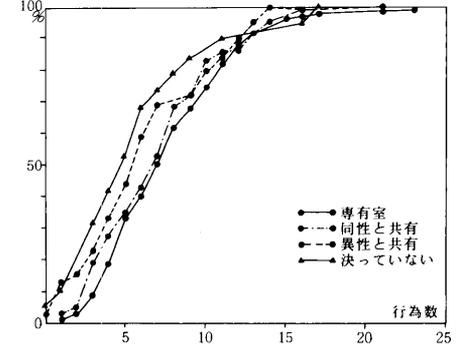


図-6 専有度別子供室での生活行為数累積百分率（日本）

行為の専有度		年齢による増加 子供室での行為・装備	
▲▲	A	●*1 寝る ●*2 着替えをする ○ 3 身づくろいをする	増加
▲▲	B	■ 1 マンガ・雑誌を読む ■ 2 友達と遊ぶ × 3 友達を泊める ○ 4 コンピューターゲームをする ■ 5 きょうだいと遊ぶ ○ 6 運動する	減少
▲▲	C	● 1 勉強する ● 2 手紙・日記・詩などを書く ●*3 本を読む × 4 コンピューター・ワープロ	変化せず
▲▲	D	● 1 ポスター等を飾る ● 2 ラジオ・音楽を聴く 3 絵・手芸・工作をする 4 楽器を弾く 5 歌を歌う ○ 6 テレビを見る	増加
	E	■○ 1 食べたり、飲んだりする × 2 たばこをすう	変化せず
▲	F	■ 1 寝転ぶ、昼寝をする	増加
	G	○ 1 衣類の手入れ・アイロン	増加
	I	× 1 植物を育てる × 2 ペットと遊ぶ × 3 動物を育てる	設備 H増加 I増加
▲▲	J	● 1 自分の大切な物をしまう ●*2 腹が立った時閉じこもる ● 3 ひとりで考えたり空想する × 4 異性の友達とふたりになる	増加 変化せず
	K	○ 1 電話をかける	減少

- 子供室でする行為 \*年齢と無関係
- どちらでもする行為
- 子供室以外でする行為
- × あまりされない行為
- 子供室以外で増加した行為
- どちらでもするが増加した行為
- 行為数11以上の人のよくする行為
- ▲ 専有度の高い人のよくする行為
- △ 専有度の高い人のあまりしない行為

図-5 行為の専有度と年齢による変化（日本）

部屋の鍵は日本の13.9%に対し、米国では約半数近くの部屋になんらかの鍵が付いており、全体の3割程度が鍵をかけた経験を持っている。具体的には、着替えや音楽を聴く、他人にじゃまされたくない時、両親とけんかした時など、プライバシーを守るために鍵を使っている。しかし日常的には、ドアの開閉だけで在室時のプライバシーを確保している。

## 2) 子供室の装備

子供室の使用状態を把握するために、子供室に置かれている物のうち本人の使う物を装備の質として種類別にとった。得られた39種類を生活行為とも対応させて11のグループに分類した。子供室内に置かれている物で他人（家族・部屋の共有者以外のきょうだい）が使う物については「物の侵入」とみなして別の項で分析している。

各装備の単純所有率を図-3に示す。日本では小1は「B. 遊び」に次いで「C. 勉強」用品が多く、子供室の用途に限定がみられる。小4も同様の傾向があるが、「B. 遊び」より「C. 勉強」用品のウエートが高くなっている。中1では「C. 勉強」は相変わらず高く「B. 遊び」用品が減少している。「D. 趣味」「F. くつろぎ」「H. 設備」用品も順調に多くなっており、遊びや勉強以外の要素が加わってくる。高1は「B. 遊び」が大きく減り、「H. 設備」用品が急増している。「F. くつろぎ」用品の伸びなど、空間を自分のものとして、より快適にしたい意識がうかがえる。日本の子供室には勉強をする場としての装備が、年齢を通して重視されている。年齢とともに増加するものは「A. bedroom」「D. 趣味」「F. くつろぎ」「H. 設備」用品、逆に減少するのは「B. 遊び」用品、年齢によって変化しないのは「C. 勉強」「J. プライバシー」用品である。

米国の方が所有率の高いものは「A. bedroom」「D. 趣味」「I. ペット」「J. プライバシー」用品と「K. 電話」であ

表-6 空間の専有度と子供室での生活行為の単純行為率 (日本)

		専有度別行為をする人数 × 100 専有度別全人数			
①	日本 % (人)	専有 %	同性と共有 %	異性と共有 %	コーナー %
A	1 寝る	77.5(110)	68.3(43)	46.2(18)	73.7(14)
	2 着替えをする	55.6( 79)	33.3(21)	43.6(17)	47.4( 9)
	3 身づくろいをする	11.3( 16)	11.1( 7)	5.1( 2)	10.5( 2)
B	1 マンガ・雑誌を読む	43.0( 61)	38.1(24)	23.1( 9)	26.3( 5)
	2 友達と遊ぶ	25.4( 36)	14.3( 9)	15.9(10)	26.3( 5)
	3 友達を泊める	14.1( 20)	12.7( 8)	3.2( 2)	— ( 0)
	4 コンピューターゲームをする	8.5( 12)	15.9(10)	7.9( 5)	15.8( 3)
	5 きょうだいと遊ぶ	5.6( 8)	14.3( 9)	15.4( 6)	21.1( 4)
C	6 運動する	7.0( 10)	6.3( 4)	15.4( 6)	5.3( 1)
	1 手紙・日記・詩を書く	44.4( 63)	50.8(32)	35.9(14)	31.6( 6)
	3 本を読む	42.3( 60)	39.7(25)	48.7(19)	26.3( 5)
	4 コンピューター・ワープロを使う	4.9( 7)	7.9( 5)	2.6( 1)	5.3( 1)
D	1 ポスター・コレクションを飾る	55.6( 79)	52.4(33)	33.3(13)	26.3( 5)
	2 ラジオ・音楽を聴く	50.0( 71)	31.7(20)	23.1( 9)	15.8( 3)
	3 絵を描く、手芸・工作をする	27.5( 39)	31.7(20)	17.9( 7)	36.8( 7)
	4 楽器を弾く	12.0( 17)	14.3( 9)	30.8(12)	26.3( 5)
	5 歌を歌う	9.2( 13)	12.7( 8)	10.3( 4)	— ( 0)
E	6 テレビを見る	4.9( 7)	9.5( 6)	7.7( 3)	15.8( 3)
	1 食べたり、飲んだりする	3.5( 5)	9.5( 6)	5.1( 2)	5.3( 1)
F	2 たばこをすう	0.7( 1)	1.6( 1)	2.6( 1)	— ( 0)
	1 寝転ぶ、昼寝をする	23.9( 34)	19.0(12)	15.4( 6)	15.8( 3)
G	1 衣類の手入れ、アイロンがけをする	4.9( 7)	1.6( 1)	— ( 0)	5.3( 1)
	1 植物を育てる	5.6( 8)	3.2( 2)	— ( 0)	— ( 0)
I	2 ベットと遊ぶ	4.2( 6)	1.6( 1)	2.6( 1)	10.5( 2)
	3 動物を育てる	1.4( 2)	3.2( 2)	— ( 0)	— ( 0)
	1 自分の大切な物をしまう	79.6(113)	81.0(51)	71.8(28)	52.6(10)
J	2 腹が立った時閉じこもる	50.0( 71)	39.7(25)	41.0(16)	21.1( 4)
	3 ひとりで考えたり、空想したりする	46.5( 66)	36.5(23)	30.8(12)	36.8( 7)
	4 異性の友達とふたりきりで居る	2.1( 3)	4.8( 3)	7.7( 3)	— ( 0)
K	1 電話をかける	3.5( 5)	7.9( 5)	5.1( 2)	5.3( 1)
全 体 (人数)		142人	63人	39人	19人

る。「C.勉強」用品では家具類は日本が多く、機器類は米国のほうが多くなっている。「D.趣味」用品の中の電化製品も米国のほうが多い。

装備の平均所有数は日本 11.7 種類に対し、米国 16.9 種類と多く、日米とも低年齢(小学生以下)と高年齢(中高生)で所有数が2分しており、高年齢になると1人当たり4~5種類増加している(表-4)。米国では10年よりも7年の方が所有数が少し多く、後述の子供室滞留時間等も同じ傾向を示すことから、7年生ではまだ家庭を中心とした生活であるが、10年生では外出が多くなり、生活の外への広がりがわかる。

米国では装備の所有数と空間の専有度との相関係数が0.3115 (P=0.000)を示し、専有度の高い方が装備の所有数が多くなっている。

### 3) 子供の生活行為

一方、子供室内で行われる可能性のある生活行為を検討し31種類を得た。次に子供がそれらの行為をしているか否かと、している場合には「子供室でする」「子供室以外でする」「どちらでもする」に区分し、子供室空間と生活行為の結びつきを明らかにした(図-4)。

「子供室でする」生活行為数は日本7.4種類に対し、米国10.6種類と多く、「どちらでもする」「子供室以外でする」の生活行為数についても、すべての年齢で米国の

表-7 生活時間 (日米比較)

	日本			米国		
	男	女	計	男	女	計
小1平均	5.6	5.8	5.7	—	—	—
家に居た時間	2.0	0.7	1.4	3.2	0.7	2.0
子供室に居た時間	9.6	10.1	9.9	—	—	—
睡眠時間	—	—	—	—	—	—
小4平均	5.6	5.6	5.6	—	—	—
家に居た時間	1.4	1.6	1.5	1.7	0.8	1.3
子供室に居た時間	9.1	9.3	9.2	—	—	—
睡眠時間	—	—	—	—	—	—
中1平均	5.5	5.6	5.6	7.2	6.6	6.9
家に居た時間	2.8	2.0	2.4	3.4	3.1	3.2
子供室に居た時間	7.9	8.8	8.4	—	—	—
睡眠時間	—	—	—	—	—	—
高1平均	7.0	6.9	7.0	5.9	6.5	6.2
家に居た時間	3.2	2.6	2.9	2.9	3.5	3.2
子供室に居た時間	7.8	7.3	7.6	—	—	—
睡眠時間	—	—	—	—	—	—

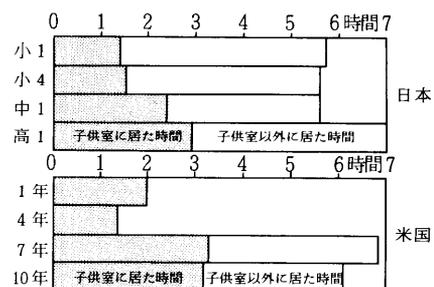


図-7 子供室滞留時間 (睡眠時間を除く)

方が高い値を示している(表-5)。日米の子供室の床面積をとっていないので、部屋全体の容積は比較できないが、子供室内の装備の数、生活行為数ともに米国の方が日本より多い。

「子供室でする」行為率が「子供室以外でする」行為率を大きく上回るような生活行為が子供室空間の本来の機能を表わしていると考えられる。米国では「A.睡眠・身づくろい」「F.くつろぎ」「J.プライベート」が、日本では「A.睡眠・身づくろい」「C.勉強」「J.プライベート」が子供室の機能としてあげられる。次いで日本では「D.趣味」「B.遊び」が、米国では「C.勉強」「D.趣味」「B.遊び」がその機能とみられる。日本ではこれらは年齢に伴って変化している(図-5)。

日米とも子供室での生活行為数の多い子供に子供室滞留時間が長い傾向はなく、装備の所有数が多い傾向もみられない。テレビや電話のような装備を子供室に持ち込むと、米国では「どちらでもする」が増加し、場所の選択の幅が広がっているが、日本ではその行為を「子供室でする」傾向が強い。因にテレビを持っている者のうち、子供室でしか見ない者は米国では26.4%(19/72)、日本では44.7%(17/38)。電話になると米国30.2%(16/53)、日本88.9%(16/18)と日本では所有者数が少ないのに、子供室でしかしない傾向が米国よりも強い。

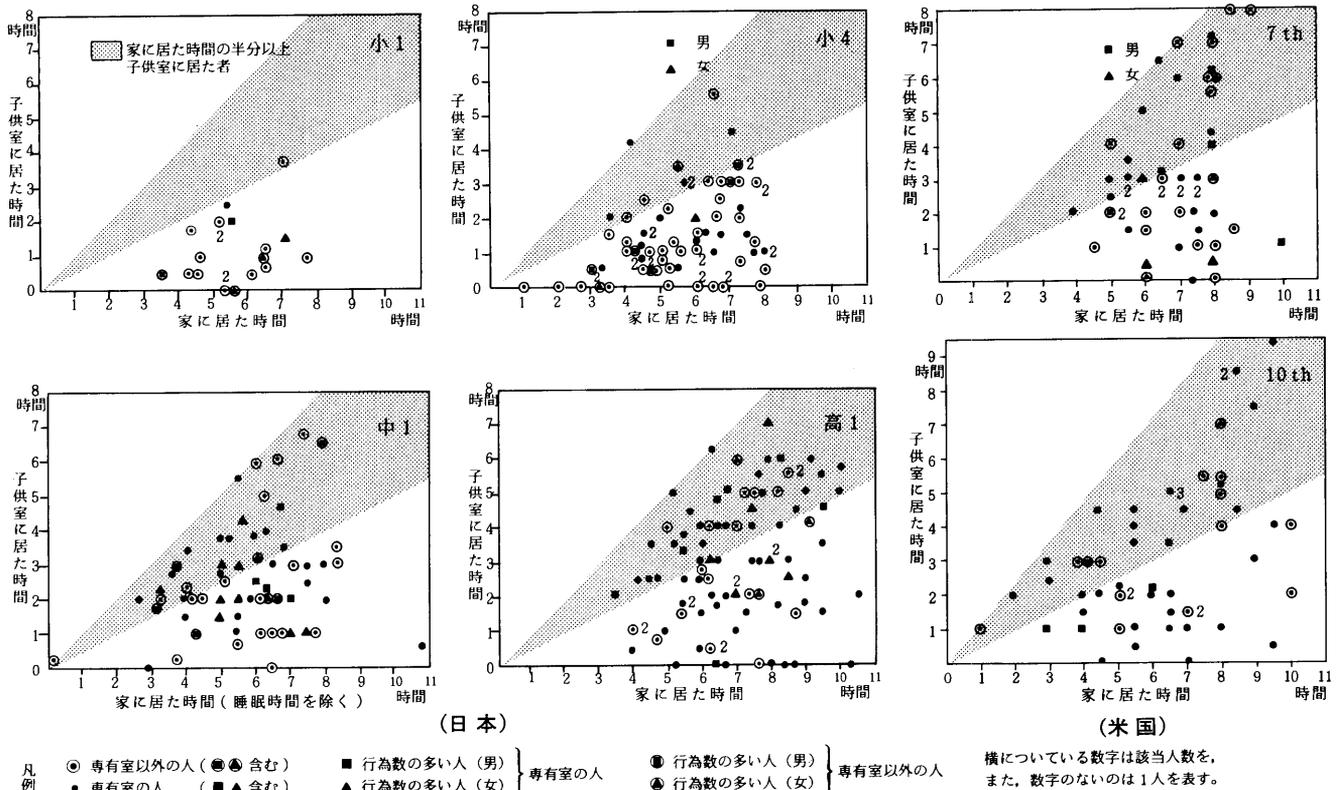


図-8 個人別、子供室に居に時間と家に居た時間 (日米)

米国では専有室か否かによって装備の所有数の増減がみられるが、生活行為数は影響されない。それに対して、日本では専有室の方が共有室の場合より生活行為数が多くなる傾向がある(図-6)。しかし、子供室滞留時間とは関係していない。

日米とも空間の専有度は生活行為の質とかかわっており、専有度の強さが生活行為に質的差異をもたらしている。例えば専有室の場合には「着替えをする」といった行為のなされる率が高いのに対し、共有室では少なくなっている。遊びや趣味の行為にしても、共有室では他人の目を気にしたり、遠慮したりするため「ポスター・

コレクションを飾る」「ラジオ・音楽を聴く」「友達と遊ぶ」ことが少なくなっている。くつろぎやプライバシーなどの行為ではその差はさらにくっきりみられる。専有室では「ひとりになれること」が大きな意味を持っているが、共有室では他人の存在を認めた上で、他人にじゃまされないことを前提とした内容が強く表われている(表-6)。

#### 4) 子供室滞留時間

子供の生活時間として睡眠時間及び起きている間どこで過ごすかを、家に居た時間とそのうち子供室に居た時間について年齢別に検討した。生活時間の平均値をみると、子供が家に居た時間(睡眠時間を除く)は、日本では小1~中1まで平均5.6時間ではほぼ等しく、高1で7.0時間と増加している。米国では10年より7年の方が家に居る時間は長い(図-7)。

子供室滞留時間は年齢とともに長くなるが、平均値で見れば米国の10年以外は家に居る時間の1/2を超えず、子供室以外に居る時間の方が長いといえる。個人別にみると、子供室滞留時間が家に居る時間の1/2以上の子供は中高生で増えるが、極端な例はない(図-8)。

家に居る時間に対する子供室滞留時間の割合は、小1...2.5割(日本)、小4...2.7割(日本)、中1...4.3割(日本)、4.6割(米国)、高1...4.2割(日本)、5.2割(米国)という値を示し、日本では小学生段階と中高生の差がくっきりしている。米国では中学・高校生とも日本より子供室に居る割合が長い。米国の10年生は家に居る時間が短いにもかかわらず、子供室に居る割合が長くなって

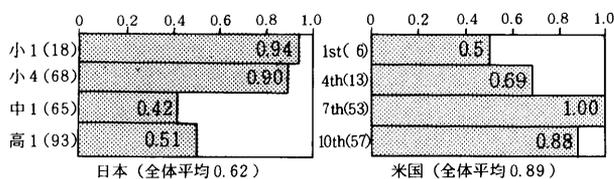


図-9 人の侵入数平均値 (日米比較)

表-8 物の侵入のある人の出現率と侵入物の平均数 (日米比較)

日 本	小 1	小 4	中 1	高 1	Total
平均 個人	2.5 (2)	3.8 (16)	2.8 (9)	1.7 (22)	2.6 (49)
専有室中 侵入のある人	66.7% (2/3)	69.6% (16/23)	20.9% (9/43)	30.1% (22/73)	34.5% (49/142)
米 国	1st	4th	7th	10th	Total
平均 個人	4.0 (2)	3.0 (6)	4.5 (2)	3.8 (12)	3.7 (22)
専有室中 侵入のある人	50.0% (2/4)	85.7% (6/7)	6.3% (2/32)	28.6% (12/42)	25.9% (22/85)

いる。これは米国での10年生の社会的成熟度の問題とかがわっている。また、日本の中高生、米国の7年生では、男子の方が女子よりも子供室に居る時間が長くなっている(表-7)。日米の子供の子供室滞留時間は、子供室での生活行為数、空間の専有度のいずれとも関係していない。

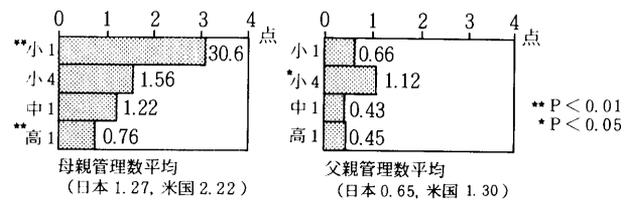


図-10 管理数平均値 (日本)

#### 4. 子供室への他からの関与の実態

##### 1) 人と物の侵入

人の侵入数平均値は、日本では小学生時から中高生になるとほぼ1/2に減少するのに対し、米国では逆に約2倍に増加している(図-9)。

日本で子供室が家族に使用される割合は10~15%で、母親が洗濯物をたたんだり、化粧をしたり、物を取りに入ったりしている。父親は仕事のために使う例が多い。通り抜けないと物干しや他室へ行けない例は18%あった。米国では20~30%が家族に使用されており、親は子供室に持ち込まれたテレビやコンピューターなどの機器類を使用するために子供室を使っている。通り抜けは住宅事情の悪い1年生以外にはほとんどみられない。

客のために子供室をあけ渡した経験は、米国では年齢を問わず40~50%ある。日本でも小学生では同程度みられるが、中高生になると20%以下になる。家族の使用のためのあけ渡しも米国の方が多い。日本ではそのほとんどが兄や姉の勉強のためとなっているが、米国ではいろいろなケースがみられる。

物の侵入については、専有室中侵入のある人の割合は米国(25.9%)が日本(34.5%)よりも少ないが、侵入

表-9 管理型の親を有する率 (日本)

	母親管理		母親管理率	父親管理		父親管理率	管理型の親		親管理率
	有	無		有	無		有	無	
小1	11人	9人	55.0%	6人	14人	30.0%	15人	5人	75.0%
小4	14	65	17.7	12	67	15.2	26	53	32.9
中1	10	60	14.3	1	69	1.4	11	59	15.7
高1	7	87	7.4	3	91	3.2	9	85	9.6
計	42	221	16.0	22	241	8.4	61	202	23.2

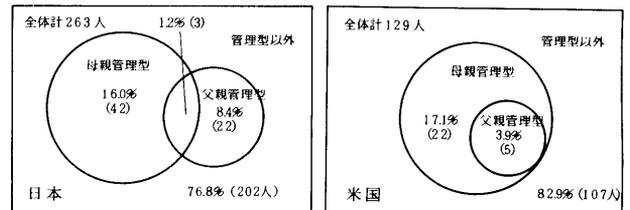


図-11 管理型の親の構成 (日米比較)

数平均は3.7個で、日本の2.6個より多い(表-8)。年齢別にみると、米国でも低年齢(1年+4年)の方が高年齢(7年+10年)よりも侵入のある人の割合が高く、日米同傾向である。1人当たり侵入物の平均個数は、男子よりも女子の方が多いのも日米共通である。日本ではミシン、アイロン、寝具類など親の都合で子供室に持ち込まれている品目が目に付いたが、米国ではmattress, closet, mirror, dresser, desk, chair, book-self, computer, typewriter, T. V., cushion, pet or other animal.

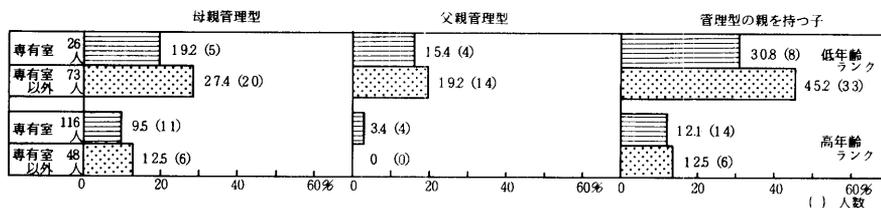


図-12 専有度別管理型出現率 (日本)

表-10 侵入型とコミュニケーション数平均点(日本)

	母親	父親
侵入型 (28人)	4.9	4.1
侵入型以外 (216人)	3.8	3.1

\*\* P < 0.01

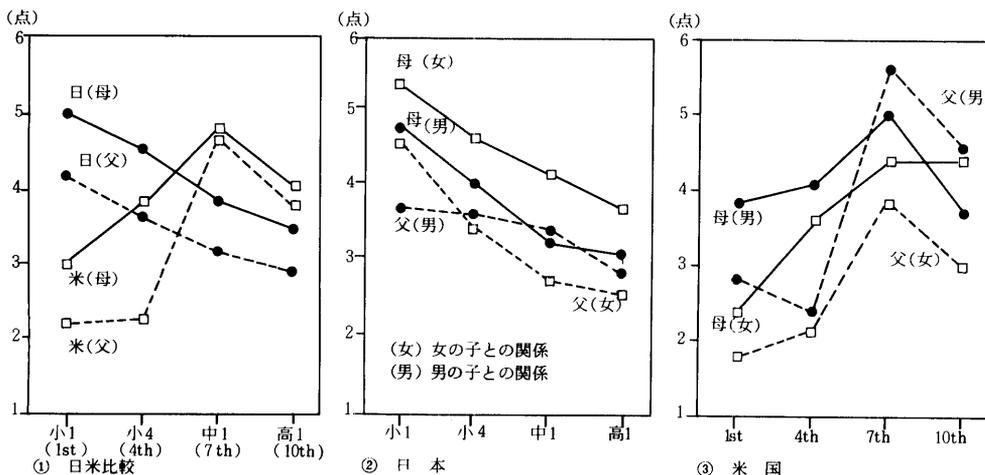


表-11 役割分担とコミュニケーション数平均点 (日本)

	母親	父親
分担有り (91人)	4.3	3.5
分担無し (172人)	3.9	3.1

\* P < 0.05

図-13 コミュニケーション数の変化

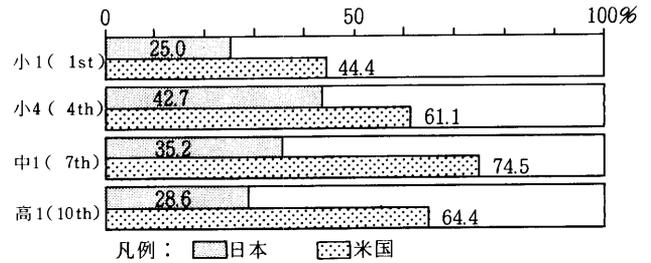
などであり、子供が品物を使うために持ち込んでいるケースも目立った。

人の侵入と空間の専有度については日米とも関係はみられなかった。人の侵入と物の侵入については、米国では相関がみられなかった。日本では物の侵入のある人とならない人における侵入型(表-3参照)の出現率が20.4%(10/49)と6.5%(6/93)を示すことから、人の侵入は物の侵入のある子に起きやすい。

侵入状態は日米の親の子居室に対する意識の差を表わしていた。日本では子供室は子供のものという意識が強い。米国では子供に断われれば親は自由に使えるという考えが基本にあり、さまざまに利用されている。日本の親は子供室を使おうという意識は少ない反面、親の都合で無断で洗濯物をたたむなどの日常的家事をしたり、置き場に困った物を置いたりしている。

## 2) 子供室の管理

子供自身の手で行われるべきことが、子供によって主体的に行われているか否かを求めた。鍵の所有、無断入室者、入室時の合図、家具の位置の決定、壁の色・模様<sup>模様</sup>の決定、壁面貼付物の決定など権利的なものと、衣類の収納、掃除、寝具の整理などの義務的なものに大別できる。日米ともにはぼ子供自身の手で行われていたのは壁面貼付物の決定と寝具の整理だけである。米国ではそのほかに鍵の所有、家具の位置の決定、壁の色・模様の決定、掃除が行われている。日本では鍵の所有と壁の色・



凡例：日本 米国  
図-14 いつもする仕事を持っている人(日米比較)

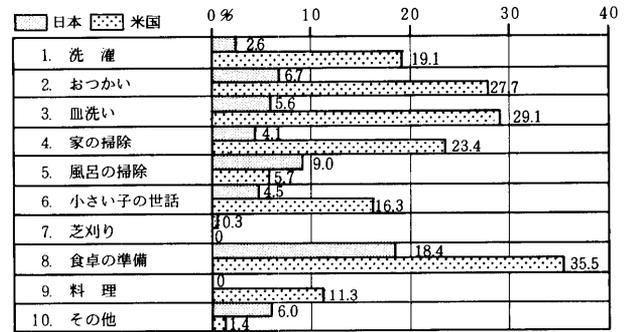


図-15 いつもする仕事の種類(日米比較)

表-12 いつもする仕事数(日米比較)

	日本			米国		
	1人当たり仕事数	仕事数	人数	1人当たり仕事数	仕事数	人数
小 1	1.60	8	5人	1.25	5	4人
小 4	1.51	53	35人	2.09	23	11人
中 1(7年)	1.60	40	25人	2.66	109	41人
高 1(10年)	2.00	52	26人	2.68	102	38人
いつもする仕事計	1.68	153	91人	2.54	239	95人
時々する仕事計	2.24	599	267人	5.19	732	141人

表-13 生活面・精神面・経済面の各項目と他要因との相関係数(米国)

(数字は設問番号)	養育態度の項目					役割分担の有無	母親コミュニケーション数	父親コミュニケーション数	母親管理数	父親管理数
	42. 友人選別に親が口出しするか	46. 親に罰せられたことがあるか	48. 親になんでも相談できるか	49. 親はしる理由を説明するか	51. 親は子供の将来に期待するか					
生活面項目	55. 朝自分で起きられるか P=0.500	-0.0273 P=0.389	0.0124 P=0.443	0.0237 P=0.396	0.0251 P=0.386	-0.1939 P=0.022	0.0701 P=0.207	-0.0450 P=0.300	-0.0042 P=0.481	-0.0792 P=0.189
生活面達成数	21. 子供室の掃除を自分でするか P=0.490	0.0627 P=0.259	-0.0910 P=0.144	-0.0623 P=0.243	0.1785 P=0.018	0.0018 P=0.492	0.0472 P=0.290	0.0384 P=0.326	0.0339 P=0.339	0.5439 P=0.000
精神面項目	22. ベットメイキングを自分でするか P=0.278	0.0809 P=0.201	0.0302 P=0.362	0.2335 P=0.004	0.0138 P=0.436	-0.2121 P=0.013	0.0586 P=0.245	-0.0312 P=0.357	-0.0916 P=0.140	0.2226 P=0.006
精神面達成数	57. 自分で夕食がつくれるか P=0.481	0.0497 P=0.306	0.0669 P=0.220	0.0753 P=0.203	-0.0524 P=0.273	0.1040 P=0.141	0.1952 P=0.011	-0.0436 P=0.307	0.0210 P=0.404	0.2081 P=0.010
経済面項目	16. 他人に入られたくない場所があるか P=0.086	-0.1237 P=0.101	-0.0344 P=0.344	-0.0878 P=0.163	-0.0140 P=0.435	-0.0771 P=0.212	-0.1466 P=0.042	-0.0352 P=0.340	0.1902 P=0.012	0.0808 P=0.182
経済面達成数	40. ひとりになれる場所が欲しいか P=0.484	-0.1849 P=0.027	0.0292 P=0.367	-0.0242 P=0.394	0.0293 P=0.366	0.0663 P=0.246	-0.0283 P=0.370	0.0327 P=0.350	0.0303 P=0.361	0.1942 P=0.014
生活面項目	41. ひとりになりたいたいと思うか P=0.281	-0.1641 P=0.044	-0.0168 P=0.430	-0.0808 P=0.210	0.0345 P=0.358	-0.1344 P=0.081	0.0625 P=0.254	-0.0741 P=0.217	0.0913 P=0.167	-0.0968 P=0.157
生活面達成数	44. 自分の不始末に親の助けが必要か P=0.429	-0.0152 P=0.472	-0.0608 P=0.239	0.1440 P=0.053	-0.0032 P=0.485	0.0316 P=0.372	0.2135 P=0.006	-0.1697 P=0.023	-0.0533 P=0.266	-0.0146 P=0.435
精神面項目	45. 門限を守るか P=0.435	-0.0167 P=0.435	0.1555 P=0.091	-0.0088 P=0.465	0.1588 P=0.062	-0.0608 P=0.275	0.1082 P=0.176	-0.0590 P=0.280	-0.1353 P=0.090	0.0293 P=0.386
精神面達成数	50. 親のしからぬ態度の差を気にするか P=0.437	0.0155 P=0.437	0.2187 P=0.013	0.0332 P=0.368	0.0036 P=0.486	0.1103 P=0.131	0.0979 P=0.164	0.0776 P=0.215	-0.0948 P=0.167	0.0808 P=0.214
経済面項目	58. 自分のお金で物を買う P=0.364	-0.0615 P=0.264	0.0197 P=0.419	0.0577 P=0.283	0.0198 P=0.418	0.0846 P=0.191	0.0378 P=0.346	-0.1160 P=0.112	-0.0300 P=0.377	-0.0626 P=0.260
経済面達成数	58. 親からもらったお金で買う P=0.329	-0.0503 P=0.302	0.1291 P=0.088	-0.1448 P=0.074	0.0557 P=0.281	-0.0605 P=0.266	0.1450 P=0.064	-0.2327 P=0.007	-0.0888 P=0.176	-0.2214 P=0.011
生活面項目	59. 金の使い道に親が口出しするか P=0.000	0.2851 P=0.000	-0.1954 P=0.158	-0.0870 P=0.311	-0.0446 P=0.445	0.1510 P=0.040	0.1204 P=0.106	-0.0354 P=0.341	-0.1608 P=0.030	-0.0218 P=0.405
生活面達成数	60. 買った後に後悔したことがあるか P=0.138	-0.0991 P=0.138	-0.1250 P=0.100	-0.0452 P=0.311	0.0133 P=0.445	0.0112 P=0.451	0.0572 P=0.277	-0.1362 P=0.019	-0.0431 P=0.318	-0.1241 P=0.091
経済面項目	経済面達成数	0.1256 P=0.070	0.0185 P=0.425	-0.0327 P=0.352	-0.0705 P=0.216	0.1220 P=0.078	0.0693 P=0.236	0.1500 P=0.039	-0.1455 P=0.044	-0.1104 P=0.098
経済面達成数										

模様の決定については、ほとんど親が行っており、家具の位置の決定と掃除については、低学年ではまだ親が主に行っていた。衣類の収納については、日米とも低学年では親が行っているが高学年になると子供がやるようになっていく。日米とも子供不在時の無断入室は多いが、米国では子供在室時には入室の合図はほぼ行われている。

以上の9項目の設問について本人がかかわらず、母親や父親だけが主にかかわっている場合を母親管理型、父親管理型とする(表-3参照)。

管理数については日米の数字は直接比較できない。米国では父母とその他の人が複数かかわっている場合も、それぞれ父・母管理に加えられているが、日本ではそのような例は「その他」になっており、米国の父母の管理数の方が高得点に出る傾向を持っているためである(図-10)。管理型については、日米とも累積百分率が83%以上を示す点数を管理の点数(日本3点、米国4点)と決めたので、ほぼ同じ基準とみることができる。

日米における管理型の親の構成に差がみられる(図-11)。日本では母親か父親のいずれか一方が管理型を示し、両親が共に管理型の場合が少ないが、米国では父親が管理型の場合、その母親は必ず管理型である。母親管理数と父親のそれが割合高い相関( $r=0.5439$ )をみせていることからもうかがえる。家庭の営みにおいても、個人の意見や行動の一致が重視される社会の一端をみせている(一致しなくなると生活を共にしない)。

日米いずれにおいても、父親管理型は少なく、母親管理型が主流であることには変わりがない(表-9)。日本では母親管理数は女の子より男の子に、父親管理数は男の子より女の子に高い値を示し、それぞれのかかわり方の偏向がわかる。米国でも高年齢では母親と男の子のかかわりが目立ち、日本と同じ傾向をみせている。

父母の管理数と空間の専有度の間には少し相関が認められた(米国母親  $r=0.2509$   $p=0.002$ , 父親  $r=0.1535$   $p=0.041$ )。日本でも図-12に示すように、専有室を持たない子の方が管理型の親が多い。また米国では管理数が多い程、人の侵入数も多い傾向がみられる(米国母親  $r=0.2802$   $p=0.001$ , 父親  $r=0.2905$   $p=0.000$ )。

## 5. 家族生活と親の養育態度

就寝分離は日米ともほぼ満たされていたので、結果については省略する。

### 1) 親子のコミュニケーション

親子の日常的なつながりを求めるために、夕食、テレビ、会話、買物(この1週間)、映画(今まで)、スポーツ観戦(今まで、この1週間)、スポーツ(この1週間)

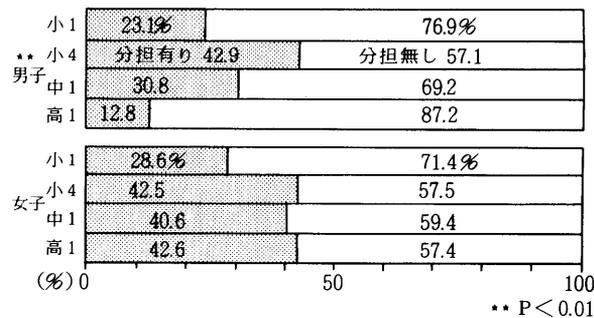


図-16 男女別役割分担有無率 (日本)

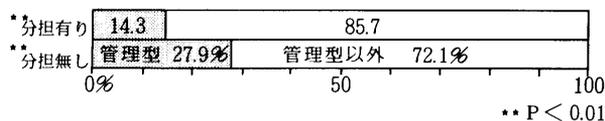


図-17 役割分担の有無と管理型 (日本)

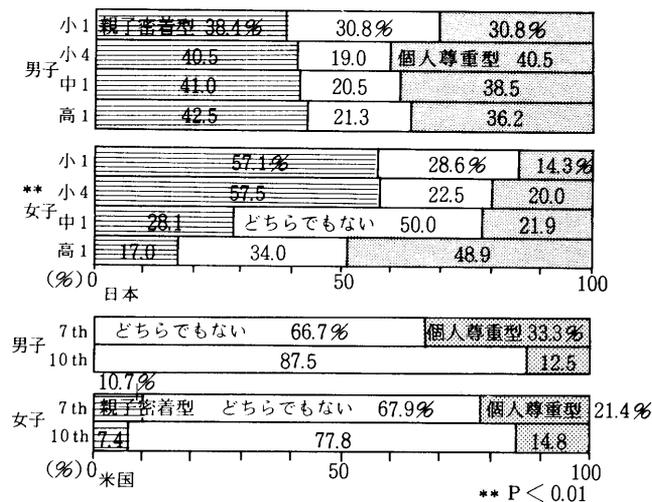


図-18 男女別養育態度型出現率 (日米比較)

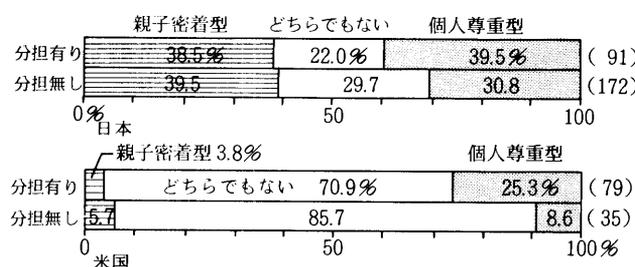


図-19 役割分担の有無と親の養育態度型 (日米比較)

の8項目について父母とともに行っている状況を点数化し、コミュニケーション数とした。

母親と夕食を共にしている者は85~90%と日米ともに多い。米国では父親と夕食を共にする率は母親の場合と同じ状況であるが、日本では父親不在の夕食が一般化していた。また、ひとりで食事している者は日本4.9%に対し、米国は12.8%である。T.V.視聴は日米とも高年齢の方が父母と共に見る率が高い。米国ではひとりで見る者も39.7%と高く日本の19.5%の倍近くになっており、高年齢の者により多くみられる。日本では小1にひとり

で見る者が多く(40%)、次いで高1(25.5%)に多くみられる。父母との会話は日本は男女とも父親より母親と(83.1%)の方が高い。米国も日本と同様母親との会話が88.7%と高い。父親との会話は79.4%で、日本より高率を占めている。いずれも高年齢時の方が高率を占めるようになる。この1週間に父母と買い物に行った人は父親よりも母親の方が多く、日本は平均39.7%で、男女差があり、低年齢で高く、年齢が高くなるに従い減少している。米国でも父親との買い物は24.1%と日本と同様低率である。母親とは平均59.6%で、年齢が高くなるに従い多くなり、7年生が最も多い。男子がいくぶん少ないが、日本のような男女差はない。また、スポーツ観戦(今まで、この1週間)、スポーツをする(この1週間)の3項目については日米とも母親よりも父親と共にする率が高い。また、映画鑑賞・スポーツ観戦・スポーツ・ヴァケーションのすべての項目について、日本では低年齢で高率を占め、漸次減少の傾向をたどるのに対し、米国では高年齢になるに従い高率を占める、全く逆の傾向がみられた。

コミュニケーション数は、日米とも父親より母親の方が大きな値を示したのは同じであるが、年齢によるコミュニケーション数の変化は日米で全く逆の傾向を示した(図-13)。日本では年齢が高くなるに従い、親とのコミュニケーションが少なくなるのに対して、米国では逆に低年齢時のコミュニケーションが少なく、年齢が高くなるに従い増加し、7年・10年では日本より大きな値を示している。日本はどの年齢についても母親とのコミュニケーションは、常に父親よりも一定の差を持って大きくなっているが、米国の7年・10年では母親と父親の差がほとんどない。

個人主義を基盤とした米国の社会では、成長するに従って、子供の方にも親とのコミュニケーションを大切にしようとする態度がみられるようになる。親の方にも子供が成長してはじめて対等な人間として扱う姿勢が強くなるためだろう。日本での低年齢の子供に対する「世話」や「母子非分離」の状態による親側からの一方的なコミュニケーションと異なり、コミュニケーションを大切にす積極的な意志や努力に支えられているのがわかる。

米国では父親コミュニケーション数の多い人はわずかに空間の専有度が高く( $r=0.1994$   $p=0.009$ )、父親管理数も多く( $r=0.3116$   $p=0.000$ )、人の侵入数も多かった( $r=0.2362$   $p=0.004$ )。このうち人の侵入数との関係は日本でもみられ、母親コミュニケーション数ともかかわっていた(表-10)。

## 2) 子供の役割分担

「時々する仕事」は全体に高率を示すため「いつもする仕事」の有無を役割分担の有無とみなした。

日本では役割分担有りは全体で34.1%しかなく、1人当たりの仕事数は1.68である。それに比べて米国では全体で66.7%、2.54と日本の約2倍の値を示している(表-12, 図-14, 図-15)。

役割分担の有無については日本は男女差がみられ、男子より女子に分担有りが多い。男子は年齢段階間に1%で有意差がみられたが、女子にはなかった。女子は年齢に関係なく一定の割合で役割分担を有する者が存在するのに対して、男子は(小4では男女の役割分担差はないが)年齢が上がるに従い、役割分担を有する者が減少している。日本の男女の置かれている社会的状況が反映されている(図-16)。米国では男女差はみられなかった。家庭生活の中で、子供が一定の仕事を担当することが社会的にも重視されているからであろう。

役割分担の有無による空間の専有度の差はみられなかったが、日米とも役割分担を有する者程、母親とのコミュニケーション数が多くなっていった(表-11, 米国母親  $r=-0.2808$   $p=0.000$ )。日本では役割分担を有する者に管理型の親の出現率が低いことから(図-17)、子供に家庭の仕事を担当させる親は子供とのコミュニケーションも多く、子供室の管理を子供に任せる傾向があり、子供を個人として尊重しているといえる。子供の役割分担を生み出す親側の要因と、役割分担が子供自身の自立の発達にどうかかわっているかをみていくことが今後とも重要であろう。

## 3) 家族生活のルール

家族生活のルールとして門限の有無をみた。門限が決められている率は、日本は小学生で71%あるのに対し、中高生では17%と激減している。米国は全体で68.1%と高い値を示している。しかし7年・10年での門限の時刻は家庭によって差が大きく、午後4時30分から午前2時まで、広範囲にばらついていた。日本では生活がパターン化されているため、門限を決める必要がないのが実状である。子供が自分の意志で行動を選べる余地が残されていないところに問題がある。

## 4) 親の養育態度

しつけ態度・関心度・期待度・個人尊重度・親子密着度の5つの側面から求めた。しつけ態度は「友達を選び方に口出しする」「罰を与えたことがあるか」。関心度は「親になんでも相談できる」。期待度は「子供の将来を期待」。個人尊重度は「しかる理由の説明」「手紙を無断で見る」。親子密着度は「子供の世話が何よりの楽しみ」の各項目でたずねた(表-3)。このうち「手紙を無断で見る」については米国では社会的規範に触れる質問であるとしてカットされた。

これらの各項目のうち「子供の将来を期待」「しかる理由の説明」「子供の世話が何よりの楽しみ」については日本の方が高率を示す傾向にあり、「友達を選び方に口出し

する」「罰を与えたことがあるか」「親になんでも相談できる」については米国の方が高率を示している。

以上の設問に対する回答で、養育態度を親子密着型と個人尊重型に分けて考察した。両タイプを抽出するための設定条件は表-3を参照すること。

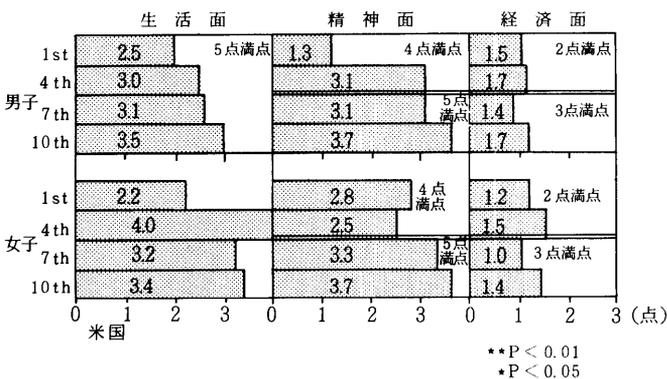
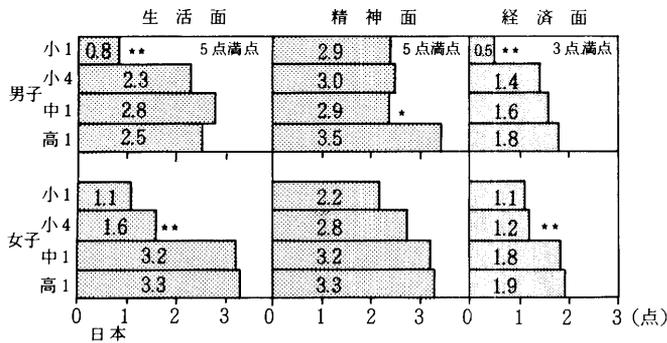


図-20 社会化達成数平均値 (日米比較)

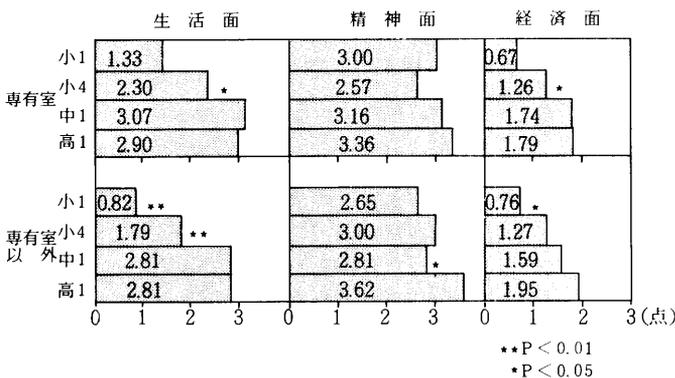


図-21 専有度別社会化達成数平均値 (日本)

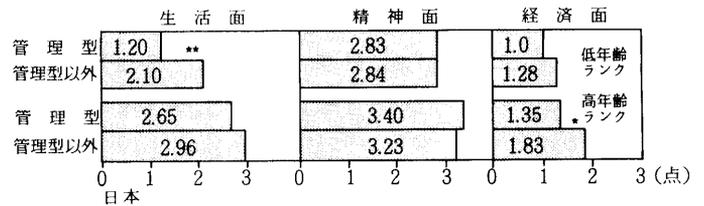


図-22 管理型別社会化達成数平均値 (日米比較)

日本では親子密着型39%、個人尊重型34%、どちらでもない27%と親子密着型が多くなっている。1%で男女に有意差があり、女子は年齢が高くなるに従い、親子密着型が少なくなるとともに個人尊重型が多くなり、親離れ、子離れの状況ははっきりとがうかがえる。それに対して、男子では全年齢を通じて両型が一定の割合で出現し、変化がみられない(図-18)。男の子に大きな期待がかけられている現代の日本の社会的状況が反映されており、そのゆがみがうかがえる。

米国では親子密着型が4.4%、個人尊重型が20.2%で残りの75.4%がどちらでもないである。男女差はみられるが、日本とは逆で、親子密着型が女子だけに出現し、男子には1例も存在しない。

「門限の遵守」や「子供の世話が何よりの楽しみ」の項目と管理数、「親になんでも相談できる」「子供の将来を期待」「罰を与えたことがあるか」等の項目とコミュニケーション数とのかかわりがみられる。これらのことから管理やコミュニケーションの意味がより明らかになっ

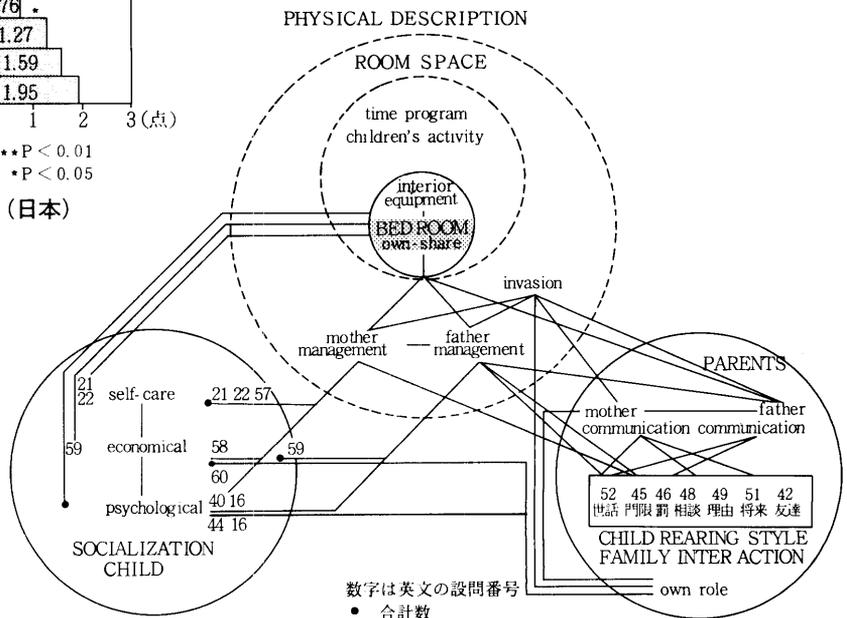


図-23 子供の社会化と空間の専有度にかかわる要因(米国)

てくる。

## 6. 子供の社会化過程

表-3に示すような生活面の自立状態5項目、精神面6項目(表-3の5項目と点数化しなかった「悩みごとの相談相手」を含む)、経済面3項目から子供の社会化過程を求めた。

生活面で日米差の大きいものは「自分で食事をつくる」であり米国が非常に高かった。その他の項目は日米とも母親の関与が存在し続けている。

精神面で日米差の顕著なのは相談相手である。友人への相談が年齢とともに増加するのは日米同傾向であるが、米国の方が母親や両親、父親を相談相手にあげる者が多く、年齢が高くなっても減少しない。米国において「ひとりになれる場所」及び「人にじゃまされずひとりで居たい」要求が高年齢層で90%と高いことは個人主義との関係を感じさせる。

経済面の3項目すべてに日米差があった。欲しい物の購入資金源は、米国は「自分で稼いだ金」で10年生の1/3いる。日本は6.4%である。日本では預金等の「自分の金」や「親からもらう」が各40%と高率を示す。購入後、後悔する率も米国66%と多い。親が子供の金の使い方に干渉する率は日本は年齢とともに低下するが、米国は逆に高くなる。

生活面・精神面・経済面の社会化達成数平均値は、日米とも年齢とともに伸びているが、日本は生活面の社会化に男女差があり、男子は高1で後退している。精神面の社会化は女子が早い。米国では男女差はない(図-20)。

日本では部屋の専有度が高くなる程、生活面の社会化

達成数が高いが、米国は精神面の社会化との相関が少しみられた。親の子居室への管理が少なく、子供に任せている方が、日米ともに子供の生活面・経済面の社会化はよく達成されている。以上、日米の子供と空間と両親(家族)の関係を求めた結果をまとめたのが図-23、図-24である。

## 7. まとめと今後の方向

日米の子居室空間の専有状態はほぼ似ていたが、物理的空間の状態や、装備、生活行為、滞留時間等々、その使われ方はそれぞれの国の文化的背景に基づく文脈によって、各部分でさまざまな違いをみせている。親やきょうだいによる子供室への関与の状況も、それらの文化的背景や使われ方の慣習などにより異なっているが、基本的には日米とも子供室への親の管理が少ない方が、子供の生活面・経済面の社会化達成度が高くなる傾向がみられる。

セッティングとしての子居室空間の専有度は、生活行為の質的内容に影響を及ぼしているほか、精神面達成数や精神面・生活面・経済面のいくつかの項目とかかわっており、専有室を持つ者の方が社会化はよく達成されている。

また、役割分担を有している方が、米国では社会化項目の達成がみられる。日本では子供に役割分担を与えているか否かということは、子供室についての親の管理の少なさと関係している。親の養育態度の本音の部分が、家庭内における子供の役割分担の与え方に出ているものと思われる。

親子のコミュニケーションについては、日米の文化、

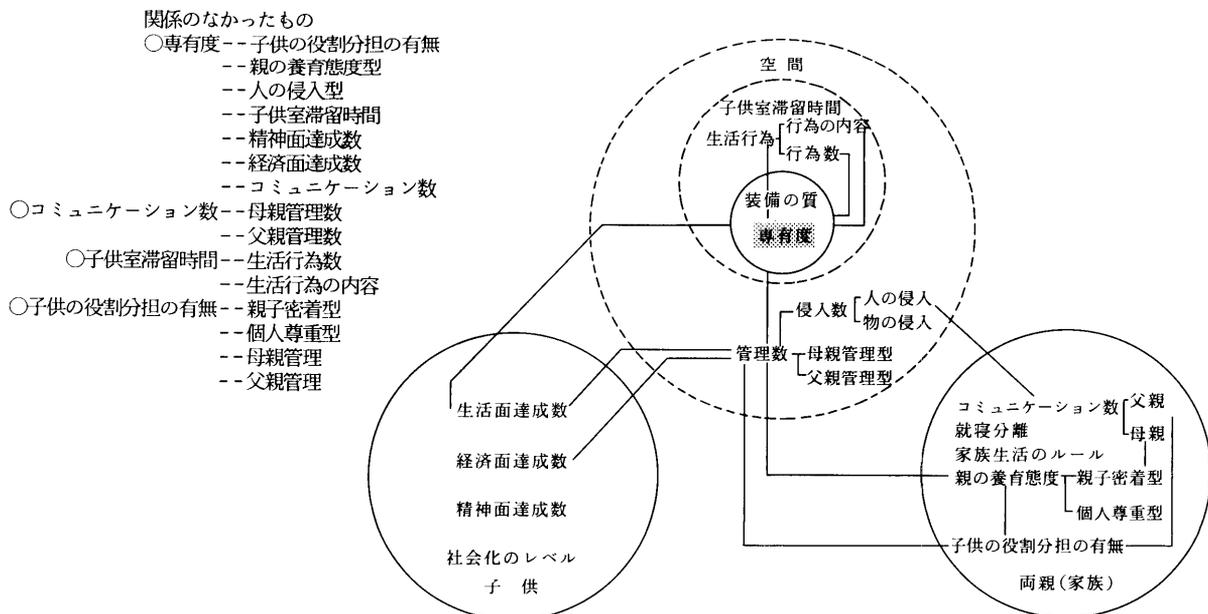


図-24 子供の社会化と空間の専有度にかかわる要因(日本)

社会的背景による違いが大きく介在していることがわかった。また、このコミュニケーション数の多さは親子間の相互の関心の高さを表わす指標ではあるが、これだけでは関心の内容がわからず、子供の自立促進の指標とはしにくい。すなわち、米国での個人主義を基盤とし、人間関係を大切にしようとする態度と、日本での低年齢の子供に対する世話や親子非分離状況におけるコミュニケーションとは異質のものと考えられる上、米国型コミュニケーションでも、内容的には多様であり、子供の自立促進という面で常に正の要因として働いているとは限らない。

本テーマの最終的課題である、子供の自立の達成と空間の関係を解明していくためには、子供の「自立」の概念を明確にさせておく必要がある。本予備研究では自立をとらえる概念として社会化の達成レベルを考え、精神面・生活面・経済面の3側面からその到達過程をとらえようとした。その結果生活面・経済面の社会化には具体的な、親の子供室空間への管理の仕方や、親の養育態度や子供の役割分担といった親子関係が影響していた。精神面の社会化も親の管理や子供の役割分担のあり方等の親子関係を基盤にしているが、精神面項目はプライバシー意識に結びつき、精神面項目数の総数が物理的空間の所有状態とかかわりがみられたほか、物理的空間の所有状態によって、その中で行われる生活行為の質が異なってくることが日米双方で明らかにされた。また、精神面・生活面・経済面の社会化達成数の間には生活面を中心として他の2つとの相関(5%で有意差あり)がみられたが、精神面と経済面にも相関(10%で有意差あり)がみられ、これら3つの側面は相互に影響を持ちながら達成されていくことがわかった。

また、これら3つの側面の中で物理的空間との関係がみられるものは、精神面と生活面であるが、生活面では親の管理との関係がより強く働き ( $r = -0.2406$ ,  $P = 0.003$ ), 精神面では物理的環境すなわち、空間の専有度の影響がより強く働いている ( $r = 0.1800$ ,  $P = 0.016$ ) ことがわかった。

以上のような本予備的研究の結果を踏まえて、Self-identity に結びつくような、空間の所有に関係する自立の概念は、精神面の社会化達成項目の中でも特に「プライバシー意識」の確立に結びつく項目と関係していることが判明した。また一方、「プライバシー意識」は「個の確立」の概念の中でも大きなウェイトを占めている要因であることに注目し、「プライバシー意識」の確立状態をとることで、「個の確立」状態を把握できるのではないかと考えた。すなわち「自立」=「個の確立」と考え、「個の確立」の中核をなす「プライバシー意識」の確立状態をとらえることによって、子供の「自立」を把握するこ

とが、現在最も明確な形で「自立」をとらえる方法であるという結論に到達した。

日本では「プライバシー」という言葉は非常に狭い意味で用いられているが、米国ではより広い概念で用いられており、「自立」の概念のほとんどの部分で重なり合うものと考えられる。そこで既述した Maxine Wolf の論文のプライバシーについての見解を参考に、① Self-Ego Dimension, ② Environmental Dimension, ③ Interpersonal Dimension の3つの側面からプライバシー意識の確立状態をとらえることによって、自立の過程をとらえていく計画である。

以上、次研究への具体的課題は、空間の専有度が個の確立にどのように影響しているかを、空間における生活行為の質的差異や子供室空間の管理、家庭内での子供の役割分担の状況から求め、親と子の両面からその関係をより詳細に追求していくことである。空間の隔離機能が重視されない日本の空間の使われ方の下では、空間の影響力は独立して取り出しにくかったが、個人主義が基盤となっている米国での空間の使われ方の下では、比較的那の影響力がつかみやすいことがわかった。次研究ではその文化差をより明確な形でとらえ、物理的環境の影響力を的確に引き出したいと考えている。

#### 〈注〉

- 1) Maxine Wolf, Robert S Laufer ; The Concept of Privacy in Childhood and Adolescence, Man environment interactions, Evaluations and applications (Part II) (EDRA V), Stroudsburg, Pa. : Dowden, Hutchinson & Ross, 1975.
- 2) Maxine Wolf, Mary Scheerer and Robert S. Laufer ; Private Places : The Concept of Privacy in Childhood and Adolescence, Environmental Design Research Association Meetings, Vancouver, British Columbia May 1976.
- 3) Maxine Wolf ; Childhood and Privacy, Human Behavior and Environment V. III. Children and the Environment, N. Y. : Plenum Press, 1978.
- 4) Leanne. G. Rivlin, Maxine Wolf ; The Environments in Childrens' Lives, City University of New York.

#### 〈研究組織〉

主査 北浦かほる 大阪市立大学講師  
委員 Roger A. Hart ニューヨーク市立大学助教授  
田丸 満 ニューヨーク市立大学大学院生  
Leanne G. Rivlin ニューヨーク市立大学教授  
Maxine Wolfe ニューヨーク市立大学教授  
中野 迪代 岐阜女子大学 助教授

#### (研究協力者)

小川 順子 大阪市立大学 学生  
勝俣友紀子 " "  
西原 祐子 " "  
森下 美樹 " "  
Bonnie Scott ニューヨーク市立大学大学院生